

第10号

定価一年間300円
組合員の購読料は
組合費に含む



発行

檜山教職員組合

〒043-0056 江差町字陣屋町 86-1
Tel 0139(52)0858 FAX(52)1490
発行責任者 白山 尚
E-mail: hiyamakyoso@proof.ocn.ne.jp



全教による来年度概算要求にかかわる文科省交渉(8月11日)=オンラインで

2022年度文科省概算要求の特徴

教員減らしてPCC増やす

来年度予算編成に向けた各省庁の概算要求が8月31日に締め切られました。文科省の概算要求は文教関係で9・1%増の4兆3859億円となっています。

教員定数については、小学校における35人学級の推進3290人、「通級指導」「初任者研修」などの基礎定数化370人、小学校高学年における教科担任制2000人、中学校生徒指導や小中一貫校支援等に475人、合計6135人の定数増を要求しています。しかし、自然減等6912人を見込んでいるため、差し引き777人減、前年度予算比16億円減となっています。

小学校高学年の教科担任制については、外国語、理科、算数、体育で22年度から4年程度で8800人の定数改善を要求、初年度分2000人が計上されます。対象教科を示したことで、各学校の実態を踏まえて行われる専科指導に影響することが危惧されます。また、全国に約2万校の小学校があることからみても、決して十分なものとはいえません。

教員定数改善については、「少人数学級等の実施のために措置している加配定数の一部振り替えを含む」とあり、教員定数の純増ではないことが示されます。加配定数を活用して実施してきた独自の少人数学級がなくなるばかりか、加配が削られる学校では教員不足に拍車がかかるおそれがあります。

深刻となる教職員の長時間労働の解消や少人数学級前進を求め、国の責任で抜本的な定数改善が求められます。

「GIGAスクール構想の着実な推進と学びの充実」では今年度の3倍以上を要求。「デジタル教科書実証事業」も大幅に増額され、全国の小学校5・6年、中学校、特別支援学校を対象にするとされています。全国学力・学習状況調査のCBT化(コンピュータ使用型テスト)に向けても大幅な増額要求がおこなわれています。

これらは「民間委託」とセットになっており、教育の「ICT化」「市場化」を加速させるものです。「活用」が自己目的化され、学校や家庭での格差がますます拡大し、現場に大きな混乱をもたらす危険があります。

「高校生等への修学支援」は昨年並みに計上され、私立高校等に通常収590万円未満世帯については私立高校平均授業料(39・6万円)水準まで支給上限を引き上げるとしており、とりくみの成果として歓迎すべきものです。大学等における授業料減免・給

文科省 学校での対応ガイドライン

「周辺対象」を設定し行政検査

濃厚接触者と周辺検査対象者の定義と取扱い等

	濃厚接触者候補	周辺対象者候補
定義	・感染者と長時間接触、直接接触 ・1メートル距離でマスクなし15分会話など	・感染者と同一の学級や部活や寮 ・対策不十分な環境で感染者と接触した者など
出席	・濃厚接触した翌日から2週間出席停止(陰性も)	・陰性なら出席可
検査	・行政検査	・行政検査

十分な体制で安心な学校と生活を

文科省は8月27日、学校で感染が確認された場合の「対応ガイドライン」を出しましたが、活用が周知されない実態が指摘されています。

「ガイドライン」は、新たに「濃厚接触者周辺の検査対象となる者の候補」を挙げ、感染者と同一の学級や部活や寮に所属する児童生徒について「判明した感染者が1人でも：原則として当該感染者が所属する学級等の全ての者を検査対象の候補とすることが考えられる」としました。しかし、検査が行政検査と明記されないため、実際の運用で生かされなかった事例があるようです。文科省は、周辺検査対象者についても行政検査であるとしています。

また、周辺対象者の出席停止の扱いをめぐっても混乱が見られました。これについても文科省は、検査が陰性の場合も出席は可だと

しています。

付型奨学金を確実に実施するとしています。低所得世帯への支援としていますが、財源が消費税を活用としたものであり、消費税が低所得者ほど重い負担となることを考えると、矛盾した施策であると指摘せざるを得ません。

無償教育を漸進的に導入するとして国際公約を守るため、教育予算の大幅増で国民生活最優先の予算へと抜本的に組みかえることが必要です。

全体として「教員減らしてPCC増やす」というべき予算要求です。現在と比べて大きく、ご協力を心よりお願いいたします。

(本文は全教談話を参照しました)

検査拡充を趣旨とした「ガイドライン」が正当に生かされるには、きちんとした丁寧な説明と対応が求められます。ただし、「ガイドライン」は、「緊急事態宣言対象地域等に指定された状況下において」とされているため、「行政検査の基本は濃厚接触者」とのスタンスは変わっていません。

そもそも文科省自身が「ガイドライン」で示す「感染者が1人でも所属する学級や部活の全員を検査対象とすること」は、地域の感染状況にかかわらず実施されるべきことです。同じ事態に際し、場所によって検査対象に区別も設けることは極めて不合理で、感染対策上でも妥当とは言えません。

十分な体制が確保され、必要な検査が滞りなく行われることは、安全で安心な学校と生活を築く緊要で確かな道です。

2021年度檜山合同教育研究集会 オンライン

～領域・課題・教科等分科会集会～

研究主題 「どの子にも確かな学力と自立・連帯の力を」

- 基本課題 ◆ 平和と真実をつらぬく民主教育の確立
- ◆ 子どもと地域に根ざす教育課程の創造
- ◆ 地域に開かれた学校づくりの推進

とき 10月2日(土) 13:30~15:30

- 参加申込み…「件名 参加申し込み ①氏名 ②住所 ③電話番号④職業(学校名・学年・担当教科等)」を下記へ

檜山合同教育研究集会をすすめる会事務局
内糸 俊男
e-mail アドレス khf04543@nifty.com

- 申込期日 9月30日(木) お早めどうぞ



主催/檜山合同教育研究集会をすすめる会

江差町字陣屋町86-1 檜山教職員会館内 T0139-52-0858 F0139-52-1490



脚本『祈りの石碑』を手に報告する山根さん

檜山合研・檜山民教共催 2021実践報告集会 報告要旨 4

山根里美さん(上ノ国小学校)

感染症の歴史調べから劇へ

シナリオが完成し、劇発表に挑む子どもたち。自分たちで創り上げてきた学習の真価が発揮されます。他者との関わりで掘り下げられていく思いが学びの内実を深めます。報告の最終です。

シナリオ完成 早く演じたい

子どもたちに「シナリオはできたんですか」と急かされ、まるで締め切りに追われる作家気分だった。修学旅行を終えた後の休みで一気に仕上げ、子どもたちに紹介した。登場人物について、ある程度クラス一人ひとりが、この人はこの人物だったら生き生き

いろんな力を借りて

演じられるのではとイメージしながら書いたこともあり、友だちの演じる姿も思い浮かべ、「早くやってみよう」と受け入れてくれた。

配役決めは、「だれが演じたらびびったりかな?」「自分ほどの役を演じてみたい?」などのアンケートをとりながら調整し、担任の意向も伝え、みんなで確認していった。実際の練習開始は本番3週間前。短期集中で励んだ。5人ずつに分かれての読み合わせ、自分たちで調べ、自分たちで物語を作ってきたということが土台にあるので、人物像を理解するのが早い。より伝わる演じ方を考え、笑いを誘う場面では思い切った演じ、人々のつらさを表現する場面では真剣に演じる姿があった。演技指導や方言指導をめぐっては、地元檜山の松尾先生のお世話になった。

『祈りの石碑』に思いを込めて

エンディングに竹内まりやの「いのちの歌」を使うことは、自分の希望としてあった。曲調がしっとりしていて、歌詞がすごく

成長の足跡振り返り

そんな渡邊先生からサプライズが。最後の練習、いつもと違って、途中から違う映像になった。そこには、これから本番に向かう子どもたちへの温かなメッセージとともに、子どもたちが低学年の頃からの写真が映し出された。やんちゃな頃もあつた子どもたちの1年ごとに成長していく姿、ついに今、学習発表会の花形である6年生の劇を見事に演じるまでに成長したんだよという懐かしの写真が流れた。うれしそうに画面を見ては

みんなで創り上げる

当日はお家の方々が見守る中、最高の演技を見せてくれた。緊張していたが、道具の出し入れや照明などを協力してとり

町の広報誌で“発見”

6年生の演劇発表はプレッシャー。今回も「笑いあり涙あり」の劇をどう創るか悩んでいたが、何か「いのち」をテーマにしたものという思いがずうっとあった。どのような題材がいいのか悩んでいたところ、目にしたのが上ノ国町広報誌だった。

6年生と学ぶ「総合的な学習」「国語」「ミニ発表会」



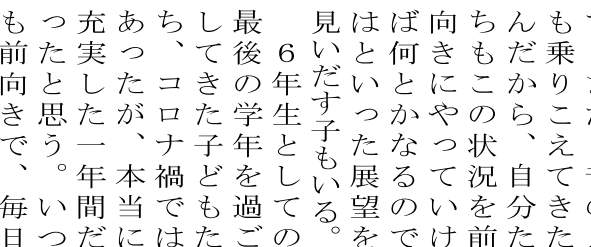
学習を振り返る

くみ、本当に伸び伸びと演じきっていた。みんなで創り上げた劇だった。

学びの振り返り

そこで上ノ国町の石碑のことが紹介されていた。私自身初めて知った。子どもたちと一緒に学んでみたいと思った。それが今回の学習のきっかけだった。学習の素材というのは、こうした日常にたくさんあるものなんだと思い、それをキャッチするアンテナを張っておくことの大事さも知った。

＜上＞寒気を訴える娘(主人公)と案ずる父親。＜中＞多くの犠牲を出して終息したはやり風邪。村人が供養碑建立を話し合う。＜下＞「いのちの歌」が流れるエドロール。「過去にも私たちと同じように、いえ、それ以上に苦しんだ人たちがいる。当時の人たちの思いを想像してみました。今日の劇で、そんな人たちの思いを少しでも届けられたと思います。学校行事がまともに行えない中、私たちはこのように劇を演じることができて幸せです。これから先、どうなるかまだわかりませんが、100年前、スペイン風邪の流行を乗り越えた人々のように、前を向き、強く生きていきたいです」の字幕スーパー。画像を加工しています。



報告は終了です。次回では、子どもの振り返り感想と報告に寄せられた感想をご紹介します。

シリーズ「GIGAスクール」は今号を休ませていただきました。次号からまた掲載します。